

とどけ、梅のちから。

CHOYA

チョーヤ梅酒株式会社・DXへの取組み

2025.08.25

はじめに

◆チョーヤ梅酒のDXへの取り組み

私たちチョーヤ梅酒は「とどけ、梅のちから。」を企業理念に、世界中の人々が健康的で楽しい毎日を送れるよう、良質な梅酒をお届けすることを使命としています。

出生率低下に伴う人口減少や深刻な人手不足といった構造的な問題を抱える我が国において、これからも変わらずお客様に喜んで頂ける商品を提供し続けるために、DX推進によって業務プロセスの抜本的な改善を行い、生産性を向上させるとともに、お客様へ提供する新たな価値創出に向けた取り組みを実現することが必要不可欠と考えております。

その最初の一步として、まずはDX推進の基盤となる社内インフラの整備、クラウドサービスやSaaSの活用、ノーコードツールによるアジャイル開発によってアナログ情報のデジタル化を進め、ものづくり現場におけるペーパーレス化や生産効率向上を目指します。そして、その過程で生まれるデジタルデータの分析・活用を通じてさらなる品質向上に取り組み、そして新たな付加価値の創造へとつなげてゆくことで、お客様に永く愛される企業であり続けたいと願っています。

代表取締役社長 金銅重弘

チョーヤ梅酒は、2025年7月、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が推進する「SECURITY ACTION（二つ星）」宣言を行いました。



セキュリティ対策自己宣言

CHOYAにおけるDX戦略

とどけ、梅のちから。

◆DX戦略を含むすべての経営戦略の礎となるCHOYAの企業理念

スマートファクトリー構想

◆高度に最適化されたものづくり現場の実現による属人化と人手不足の解消

デジタルデータ活用

◆アナログな設備やレガシーシステムを刷新する過程で生まれるデジタルデータの活用

ものづくり現場のデジタル化

◆ノーコードツール活用・生産設備のIoT化によるデジタイゼーション・デジタルライゼーションの実現

IT基盤整備

◆社内インフラ整備・クラウドサービスやSaaSの導入によるDX推進に向けたIT基盤の構築

データに基づく経営戦略策定

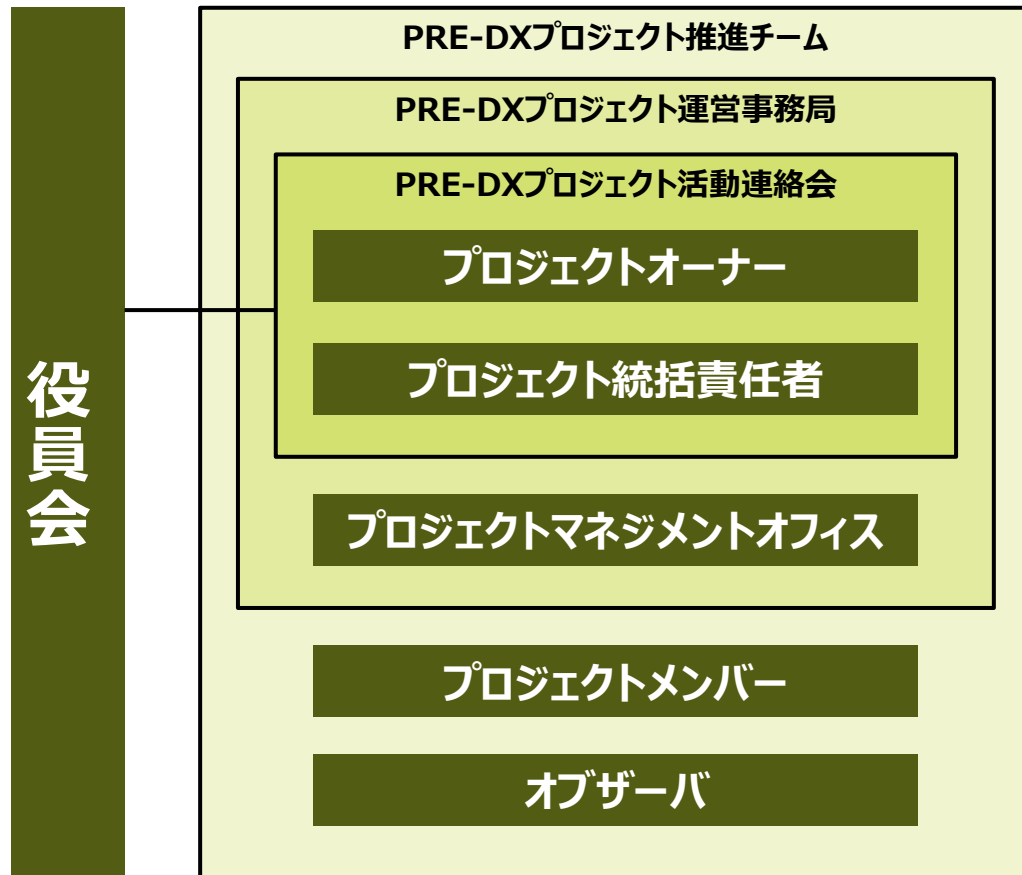
- ◆販売データ分析による需要予測の精度向上・生産計画の最適化・在庫適正化
- ◆生産工程データ分析による異常の予兆検知・予防措置による工場稼働率向上・生産工期短縮
- ◆購買データ・キャンペーン情報・SNS分析によるプロモーション活動の最適化・デジタルマーケティングの実現

新たな価値創出への投資

◆DX実現によって生まれた利益を新たな価値創出への投資に配分

DX推進体制

◆PRE-DXプロジェクト体制図



◆PRE-DXプロジェクトとは？

2024年に発足したDX推進を目的とする組織横断型プロジェクトです。プロジェクト名に含まれる「PRE」とは「Process Restructure」または「Process Re-engineering」の略で、いずれも「工程の再構築」を意味します。また「前の」という意味を表す接頭語の「プレ」でもあり、「DXの前段階」「DXへの足掛かり」といった意味合いも込められています。

◆PRE-DXプロジェクト活動連絡会

自らも役員であるプロジェクトオーナーと、システム開発経験が豊富で経済産業省が認定するITストラテジストでもあるプロジェクト統括責任者が役員会との情報共有を行い、経営戦略に則ったDX戦略を企画・立案します。

◆PRE-DXプロジェクト運営事務局

上記のPRE-DXプロジェクト活動連絡会と、情報システム部門のメンバーから成るプロジェクトマネジメントオフィスを加えた組織です。合議制によるプロジェクトの意思決定を行います。

◆PRE-DXプロジェクト推進チーム

PRE-DXプロジェクト運営事務局の意思決定に従い、活動テーマ毎にチームを結成してプロジェクトを推進します。各部門の所属長もオブザーバとして参加し、助言を行います。

DX人材育成に向けた取り組み

◆ノーコードツールを用いたアジャイル開発によるOJT

当社は非IT系企業では珍しい、外部のITベンダーに頼らない自社による完全内製DXを目指しています。そのため、PRE-DXプロジェクトの参加メンバーは大半がシステム開発未経験者であり、なおかつ本来の所属部門にて日常業務を抱えながらのプロジェクト参加であることから、長期間に渡る集中的な人材教育を行うことは現実的ではありません。そこで、システム開発経験が豊富なPRE-DXプロジェクト運営事務局メンバーの監修・指導のもと、ノーコードツールによるアジャイル開発を通じたOJTにより、現場の業務を熟知している担当者自らの手によるDX推進とDX人材育成を同時に進めています。

◆自社独自のカリキュラムによる研修の実施

DX人材育成カリキュラムとして、CHOYAではITストラテジスト試験合格者が講師を務める「DX研修」を実施し、全社員に受講を義務づけています。また、DX推進と情報セキュリティ対策は車の両輪であり、従業員全員が情報セキュリティの正しい知識を身につけることも重要であることから、情報処理安全確保支援士による「情報セキュリティ研修」を実施し、こちらも受講を義務づけています。

◆情報処理技術者試験の受験を奨励

DX人材育成の一環として、先述のDX研修において受講者全員にITパスポート試験の受験を奨励し、CHOYA全体のDXリテラシー底上げを目指しています。また、DX推進の中心的存在となる人材に対してはより高度な試験区分（スキルレベル2以上）の受験を奨励しています。2025年3月現在、情報処理技術者試験全区分を通して延べ10名以上の合格者を輩出しています。

◆情報処理技術者試験 延べ合格者数

試験区分	スキルレベル	延べ合格者数
ITストラテジスト試験	4	1人
プロジェクトマネージャ試験	4	1人
ITサービスマネージャ試験	4	1人
データベーススペシャリスト試験	4	1人
情報処理安全確保支援士試験	4	1人
応用情報技術者試験	3	1人
基本情報技術者試験	2	1人
情報セキュリティマネジメント試験	2	1人
ITパスポート試験	1	3人

システム環境整備・技術活用方策

◆クラウドストレージサービス導入

オンプレミスで稼働していたファイルサーバに代わり、クラウドストレージサービスを導入して社内外問わず自社リソースにアクセスできる環境を整備しました。併せてフォルダ毎にアクセス権限を詳細に設定することで、情報セキュリティ面もより一層強化しています。

将来的には生成AIを活用し、クラウドストレージサービスのデータからマニュアルや提案資料を作成させる、社員の問合せにチャット機能で回答させるといった構想があります。

◆工場内の無線LAN環境整備と生産設備からのデータ取得

ものづくりの現場である工場で稼働している生産設備は通信機能が標準搭載されているもの、通信を可能とするPLCの取り付けが可能なものが大半を占めています。これらの機能を用いて、現在は従業員が巡回して目視で確認して記録用紙に手書きで記録している生産設備の各種ステータス値を自動取得し、大幅な省力化を実現します。その前段階として工場内のネットワーク環境整備を実施し、無線LANの全面導入を行いました。

◆ノーコード開発ツールによる帳票の電子化

上記の無線LAN環境整備によって、工場内でタブレット端末などのスマートデバイスを活用できるようになります。そこで、ノーコード開発ツールによって帳票の電子化を行い、タブレット端末による電子帳票の作成を行うことでペーパーレス化を実現します。

DX戦略KPI

- ◆ 帳票電子化により、年間約15,000枚のペーパーレス化を実現します。
- ◆ 生産設備のIoT化、認識AIによる製品の外観検査の導入による省力化を実現し、人件費を約15%削減します。
- ◆ 各種生産設備から取得したデータの解析、スマートデバイス活用による遠隔操作などにより、生産拠点における機器の異常や故障への対応を迅速化し、さらに予防措置を取ることで稼働率を向上させ、従来と比較して約10%の生産力向上と生産工期短縮を実現します。
- ◆ 併せて従業員の時間外労働を約30%削減し、製造原価の圧縮と従業員満足度の向上を目指します。